

## 発達科学部における 情報コンセント教室の利用

神戸大学発達科学部  
高橋 正

総合情報処理センター広報委員会より依頼を受けて、発達科学部における情報コンセント教室の利用状況を紹介します。

発達科学部には、学部全体の情報教育施設として、情報教育設備室 RIE があり、その中の、E454 という部屋と E452 という部屋が情報コンセント教室になっています。RIE とは、Room for Information Education の愛称であり、宮沢りえからとったものではありません。現在、情報コンセント教室には、スペースとコンピュータの台数の関係で 15 台の Mac II がイーサネットで学内 LAN に繋がっています。特に、Mac II が好きという訳ではないのですが、設備の更新ができず、故障と修理の繰り返しですが、なんとか生かしています。9 月になって、震災で破損した機器の交換として Power Mac 7100/80AV が 7 台入ってきました。RIE にとっては貴重な最新鋭機の導入となりました（世間とは 1 年以上ずれています）。

まず、講義及び演習で、この RIE を使用している科目の科目名、担当者、曜日、時限、簡単な内容を紹介します。

科 目	担 当	時 限	内 容
健康体力実験	平川	月 1,2	データ・統計・図形処理 "Excel, カレイダグラフ"
健康統計学演習	藤田	月 4	統計・グラフ・ワープロ "Excel, EG Word"
計算機の数学的理論	高橋正	月 4	C 言語による数学的プログラミングの解説
地域社会研究実習	澤	火 2	文献リスト・地図作成 "File Maker, Super Paint"
計算機数学 I	高橋正	火 2	ネットワークの使い方及び C 言語 によるプログラミング演習
計算機の数学的理論	高橋正	水 1	C 言語による数学的プログラミング の解説
数学講究	高橋正	水 2	C 言語による数学解析
情報処理実習	城	水 1,2	ワープロ, 統計, 編集 "Excel, EG Word, Page Maker"
自由演習	高橋正	水 3	計算機の数学的理論と計算機 数学 I の個人演習
心理統計法	斉藤誠一	木 2	"SPSS, Excel"
応用統計学	稲葉	木 2	データ解析
英語科演習	沖原	木 4	インターネット "Netscape, Eudora"
算数教育論	高橋正	金 4	Web による情報収集及び情報発信

95 年度前期の講義及び演習

科目	担当	時限	内容
心理統計法	斉藤誠一	月 3, 4	"SPSS,Excel"
計算機の数学的理論	高橋正	月 4	C 言語による数学的プログラミングの解説
計算機数学 I	高橋正	火 2	Mathematica の演習及び計算機代数の講義及び演習
計算機の数学的理論	高橋正	水 1	C 言語による数学的プログラミングの解説
数学講究	高橋正	水 2	C 言語による数学解析
教育情報処理法	浅田	水 2	情報処理一般
自由演習	高橋正	水 3	計算機の数学的理論と計算機数学 I の個人演習
数学教育論	高橋正	水 5	WWW の HP の作成等
心理統計法	斉藤誠一	木 2	データ解析
教育情報処理	浅田	木 2	情報処理一般
応用統計学	稲葉	木 4	データ解析
算数教育論	高橋正	金 4	Web による情報収集及び情報発信

(上記の科目名は、1995.9.30 での情報教育設備室に利用届けが提出されているものです。)

#### 95 年度後期の講義及び演習

このなかで、情報コンセント教室を使っている科目の例として、私の担当している科目をいくつか紹介させていただきます。(時間の関係でそれぞれの担当教官に内容を伺うことができませんでした。)

計算機の数学的理論は、教育学部の、主に、数学専攻の学生向けの科目です。内容は基本的な C 言語プログラムの解説とその演習です。この授業では、Mac で telnet を使って数理情報教室の WS SS10 にアクセスして、GCC で演習をしています。学生はこの科目以外コンピュータを触ったことがない学生が多く、はじめは戸惑っています。この科目は、教育学部の科目であるため、今年 1 年間で終わります。

計算機数学 I は、発達科学部の、主に、人間環境科学科数理情報環境論講座の 2 年生向けの科目です(人間... 講座の名前が長い!)。この科目では、前期は、Mac の基本操作からはじめ、ネットワークへの接続の仕方(これも telnet)を学習し、数理情報教室の WS SS10 にアクセスして、GCC で C 言語プログラムの演習をします。後期は、Mac で Mathematica の演習をし、その後、ワークステーションにアクセスして、Mathematica の演習をし、グレブナー基底を用いた計算機代数の応用(イデアル理論の計算機での応用)について演習します。この科目には、数理情報の学生以外にも自然環境論、生活環境論さらに行動表現学科の音楽コースの学生も履修しています。プログラミングへの関心や意欲も数理情報の学生と同じです(もしくは個人的には上回る学生もいます)。この科目も演習が多いため、お互いに話しながら(話し過ぎるものもいる)、がやがやと狭い部屋でやっています。この科目には大学院教育研究科の院生が TA (ティーチングアシスタント)として指導しています。学生は院生に教えてもらう方が親近感があるらしく、院生の TA はひっぱりだこです。教師(私)は呑みつかないので

すが、数式処理システム Mathematica の演習に入ると、多くの学生が、これは便利なソフトウェアであると感じるようです。しかし、少しすると、使うにはユーザに数学の知識が必要なことを感じるようです。

数学講究は、教育学部 4 年生で私の卒業研究を履修している学生向けの科目です。来年からは、発達科学部 4 年生で私の卒業研究を履修している学生向けの科目となり、科目名も計算機数学特論となります（セミナー生がいない場合は開店休業です）。この科目は近代科学社のテキスト「C 言語による数学解析」を読み、セミナー形式で発表します。この科目はセミナー形式のため、学生は準備のためにかなりの時間をかけています。また、セミナーに関する連絡及び毎回発表した結果（テキストの問題となっているプログラム作りの結果）は電子メールを使って、セミナー生全員と私に送っています。紙資源の無駄をなくすためにも電子メールは貢献しています（ちょっと大げさかな？）。しかし、このようなメールの使用をしないと学生も使える実感が持てないようです。たしかに、同じ部屋で声をかければ聞こえる距離でメールを送りあっても、便利だという実感が持てないでしょう。

算数教育論は、大学院教育研究科の数学教育専攻の学生向けの科目です。この科目では、最近著しく発展しているインターネットの状況を調査しています。学生に特色のあるサイトをレポートさせたり、数学教育に関係した HP（ホームページ）を探させて、リンクのはり方や HP のデザインなどを分析させています。この科目での内容は、後期からの、発達科学部 3 年生向けの科目、数学教育論においても扱う予定です。さらに、数学教育論では 3 人単位でグループを構成し（コンピュータの知識があるものとなないものを組み合わせ）、それぞれのグループで HP を作らせることを予定しています。それまでにできるかぎり、Mac II を Power Mac にしておかないと、遅くて進まないことが予想されます。これが実行できたら、発達科学部のホームページにリンクしますので、眺めて下さい。この演習をすることによって、来年、数理情報 1 回生の卒業記念アルバムを Web の HP として作らせようと勝手に考えているのです（アルバム作成業者から狙われるかもしれない、アルバムはアルバムとしていいものです（^^;））

忘れてはいけないものが、RIE 講習会です。RIE 講習会は月に 1 回程度、RIE の利用を促進するために行っています。以前はワープロ、表計算ソフト、SPSS などの講習会が多かったのですが、情報コンセント教室ができて以来、ネットワーク関係、特に、メールとニュースを読むことに関する講習会が増えています。1995 年度の 9 月以降の RIE 講習会の予定は以下のようになっています。

日 程	講 師	テ ー マ
9 月 13 日（水） 午後 4 時	長尾夏樹（M2）	インターネット
10 月 25 日（水） 午後 4 時	橋場弘和（M2）	インターネット B
11 月 8 日（水） 午後 4 時	伊藤知美（教務補佐）	ワープロ & ドロー
12 月 6 日（水） 午後 4 時	斉藤（誠）先生	Excel & SPSS
1 月 10 日（水） 午後 4 時	浅田匡先生	カード型データベース
2 月 14 日（水） 午後 4 時	青木（茂）先生	インターネット C
3 月 6 日（水） 午後 4 時	蛭名先生	インターネット D

RIE 講習会の予定

特に、10月25日に行う講習会は、講師である、教育学研究科 M2 の橋場君によって作られた講習会資料が Web ページとして公開されています。なかなかの力作です。覗いて下さい。場所は、

<http://133.30.130.5/Note/rie-index.html>

です。

発達科学部での情報コンセント教室の利用状況紹介と書きながら、私の担当している科目ばかりを書いてしまいました。ここで紹介した科目は、発達科学部での情報コンセント教室利用状況の一部と考えて下さい。

発達科学部では、今後の情報教育のあり方について、情報システム委員会で検討をはじめようとしています。発達科学部は平成4年10月に教育学部を改組して発足しました。この学部は文科系と理科系の両方があり、それらを融合した中での情報教育の在り方模索しなければなりません。この学部はある意味では、ミニ総合大学のような教育を求められています。したがって、理科系におけるコンピュータリテラシーを、そのままの形で教育に反映させることはできません。しかし、近年、文科系においてもネットワークを活用した情報収集及び情報発信も盛んになっています。したがって、文科系学生へのコンピュータリテラシーもより重要なウエイトを占めることと思われれます。

これらの状況の中で、発達科学部では、学部カリキュラムの見直しを含めて、情報教育の在り方を検討しなければなりません。大阪大学工学部では、シラバスを、各教官に、HTML形式で書かせ、Webで学生が見られるようにしようとしています。発達科学部も、このような試みを行い、発達科学部の理念に沿った21世紀への学部情報教育を実践すべきであると考えています。